



いいたて

# 議会だより

No. 55

平成24年8月5日  
発行：飯館村議会



## 平成24年6月定例会

特別委員会	2
議案審議	3
一般質問	4~8
常任委員会活動報告	9
審議結果・議会のうごき・編集後記	10

# 早期かつ的確な対応を国に要求

## 復興対策特別委員会 各省庁に陳情

復興に関して審議検討を行うために設置された「復興対策特別委員会」で、去る7月5日に各省庁に陳情活動を行った。今年度からの住環境の本格除染を目前にして仮置き場の建設や賠償のありかた、除染の具体的方法などについて村民の要求を実現できるよう強く働きかけた。

### 放射能汚染物の早期除染と復興を求める意見書

- 1 住環境に加え、農地・森林の除染工程表を策定し、立木の伐採、賠償の改定を早急に行うこと。
- 2 仮置き場の早期着工と減容化施設、中間貯蔵施設の設置場所整備方針を早急に明示すること。
- 3 自然再生エネルギー創出として山林伐採の除染物による木質バイオマス発電所建設を国の責任で村に整備すること。
- 4 復興と帰還が終わるまで、損害賠償と村民の生活保障については、東京電力と国の責任で行うこと。

陳情先は関係省庁として、総理官邸、復興庁、文科省、農水省、環境省、経産省、総務省と民主党幹事長室へ実施した。本格除染を控え、特に懸念されている仮置き場の建設の遅れについては除染工程に支障をきたすことから早期着工と利用面積の確保を強く訴えた。また復興庁が本来の役割である、窓口一本化としての機能を果たすよう強く求めた。



▲農林大臣へ意見書の提出

### 「同意できない！」

### 説明会内容

### 除染方法をめぐって 議論

去る7月4日の二枚橋地区から始まった除染の説明会で、国から示された具体的手法についても問題提起した。特に老朽化した建物について除染不可能や困難などと説明した点

は村民に不安をもたらした。このままでは同意を求めることはできないとした。また「いぐね」の除染をめぐって伐採困難な場合は行わないとした点についても改善を求めた。

これに対して、同意に向けての個別協議の中で、本人の希望が確認されれば「解体」や除染に伴う破損箇所の復旧などの可能性もあることが示された。

また、林の端から20mの除染範囲については、伐採以外に枝打ち、腐葉土掻きとりを行い、落葉除去は3年程度継続することも話が出された。

それ以外に、建築年数を経過した財物(住居)等の補償基準の適正化、詳細な農地モニタリングの実施、排出物減容化の方策として焼却炉の設置なども訴えた。

今後、環境省の出生機関である福島再生事務所も含め確実な実行を求めている。

議案審議

# ザ・議論

6月定例会では  
補正予算などの議案審議を通じて、  
次のような議論が交わされました。

## 被災地域農業施設整備事業について

質問

この事業についての  
場所、内容、補助率に  
ついて伺う

答弁

場所は福島市内笹  
谷、荒井、飯野地区。  
事業内容は、花卉農家  
の支援で、施設関係、  
パイプハウス造成工事  
等の支援。補助率は復  
興交付金で75パーセン  
ト、特別交付金で25  
パーセントになる。

質問

笹谷、荒井、飯野と  
いうことであるがパイプ  
ハウスの建設工事数は？

答弁

笹谷に3棟、荒井に  
12棟、飯野に4棟、そ  
れに育苗棟で合計20棟  
の建設になる。

質問

花卉農家の支援とい  
うことだが何人希望し  
ているのか。

答弁

4名希望している。

## 農業施設災害復旧費について

質問

災害復旧費として、  
ため池、農地等の土の  
う積み、転圧としての  
補強ということだが、  
場所はどのようになっ  
ているのか。

答弁

農地については2ヶ  
所、ため池が3ヶ所、  
水路が1ヶ所である。

質問

今後も災害が考  
えられる。避難の  
長期化に備えての  
対応策は。

答弁

復興対策課の建  
設管理係、農政係  
の職員により台風  
等々のあった際に  
は、即現場確認し  
対応する。



▲パイプハウス概要

## 農民生きがいづくり支援事業について

質問

事業内容の説明を求  
める

答弁

避難先での健康増進  
のために営農目的とし  
ないで農作物作りをし  
ていただく。畑2反歩、  
田んぼ3反歩でひとり  
当たり5万円の補助金  
と考えている。

質問

結果として販売額が  
高額になった場合の補  
助金は返納となるのか

答弁

今のところ返納につ  
いては考えていない。



◀▲楽しみながらの野菜づくり

# 村政

## ここが ききたい？

一般質問 Q&A



菅野 義人 議員

**質** どういからず、

**除染説明会での意見を**

**答** 今後とも村民に寄り添った  
要求・要望をしていく

**質問**

多くの村民が国や行政、議会に対する不信感を抱くなか、避難地域の見直しが進められた。そのためにも、今後の除染の進め方については妥協すべきでないと考え。説明会に出された意見要望等についてどのように生かしていくのか。

**答弁**

出された意見、要望

**質**

**国との向き合い方は村の実態に即しているか否かで考えるべき**

**答弁**

特に空間線量の目標値、「いぐね」の伐採、敷地内の廃棄物の処分、除染の範囲などが重要と考える。

**質問**

村は単に国に協力をするのではなく、「当該地域の自然的、社会的条件に応じて適切な役割を果たす」と除染特別措置法に定められている。我々が国と対峙する時の根拠と認識すべきではないか。

**答弁**

かなり必死になって国に訴え、事業や予算を入れさせていたというところではない。今後とも村民の立場で向かっていきたい。

**将来を託する若者  
につなぐための復興計画に**

**質問**

復興計画策定に当たっては将来を担う青年層の意思を反映することが重要であり、村の未来へつなぐためにも意見聴取を行うべきと考えるが。

**答弁**

推進委員に若手を選任し協議を進めてきたし、特に若い方々、PTA関係者との懇談など力を入れていきたい。また住民アンケートでも年代別や職業別の意向について把握していきたい。

**質問**

一人一人の復興に向き合う計画として「帰れない人」に対する支援を考えるには、他自治体との連携も必要ではないか。

**答弁**

ほかの自治体であるので難しい点もあるが、現在提案していることもある。精力的に進めていきたい。



▲住環境除染にむけての説明会(白石地区)



佐野 幸正 議員

## 質 村長選への立候補は

答 多くの村民の付託を  
いただけるなら

### 質問

十六年間村長として  
村を導いていただき自  
信の持てる村となつて  
きたところに今回の原  
発事故。全村避難を強  
いられている村の一日  
も早い復興、帰村が求  
められる。そのためにも  
再度村長選挙に出馬  
の決意をしていただき  
たいが、伺う。

### 答弁

今回の災害に対し村

## 農地の除染と 農業の再興に 向けた取り組みを

### 質問

農地除染の工程表と  
除染の方法並びに、除  
染の目標値をどのよう  
に考えているか伺う。

### 答弁

平成二十四年度、  
二十五年度の2年で住  
宅等周りの農地を除染  
し、村の除染計画書の  
通り5年間で全ての農  
地の除染をする。また  
除染の方法は主に「表  
土はぎ取り」で実施。  
目標値は土壌の濃度が  
1キログラム当たり  
1,000ベクレル以  
下にする。

### 質問

農業の再興に向けた  
工程はどのように考え  
ているのか。

### 答弁

農地の除染を積極的  
に進め営農再開の環境  
を整えることが最優先  
と考えている。村内営  
農の経験と技術の継承  
のため、避難先での営  
農支援策として復興交  
付金及び、県補助金を  
活用した花卉を中心と  
した施設園芸や、経営  
開始支援事業として、  
花卉、野菜、畜産の初  
期生産資材等支援を実  
施する。また風評被害  
により消費者の不安解  
消には時間がかかるこ  
と予想されることから、  
直接口に入らない作物  
である花卉の栽培が最  
も有効でないかと考え  
る。水耕栽培等、新し  
い農業も試みたい。除  
染後、水稲や数種類の  
野菜などの作付けも計  
画し、実証による知見  
なども参考にしていき  
たい。



▲農地除染の様子



松下 義喜 議員

**質** 復興策として  
バイオシステム等を  
推進する考えはないのか

**答** 復興交付金事業にメニュー化  
されており村でも取り組みを  
検討

**質問** 議会として、木質バイオマス発電や稲ワラ原料のバイオエタノールの研修をしている。村としても、復興策として稲ワラや森林を活用したバイオマスシステム等を推進する考えはないか。

**答** 住環境の本格除染を

オエタノール等は復興交付金事業にメニュー化されており、村でも取組みを検討している。また、他の自治体も要望していることから国が主体となり調整していただけるよう要望している。

**復興に関する村の各委員会取り組み状況を説明せよ**

**質問**

まで復興計画推進委員会、飯館健康リスクコミュニケーションシヨンプロモーション委員会、飯館までいな除染会議の活動状況と現在の課題は何か。

**答**

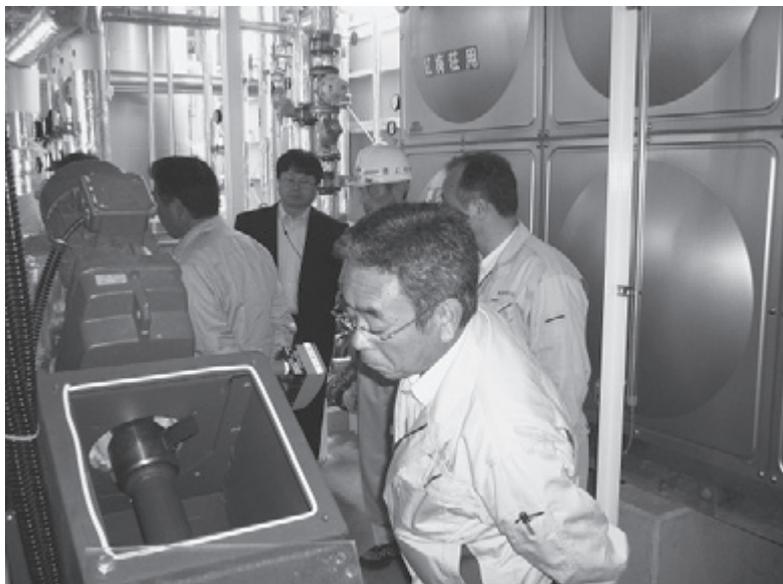
復興委員会は5回会合を開き、村民一人ひとりに寄り添うこととした第一版を踏まえ「戻りたい人」「戻りたくても戻れない人」「戻らない人」の立場に立った支援策について協議を重ねた。今後更

に2回の協議を重ね6月末には答申をまとめたい。

主な施策として「戻りたい人」には2枚橋地区に復興住宅や植物工場、再生可能エネルギーを活用した村内拠点の整備。「戻れない人」に対しては村外に復興住宅やキッズガーデン等への子育て拠点を整備計画している。委員会からの答申をもとに復興計画第2版を策定し、その後住民懇談会を開き今後の復興につなげる。

健康リスクコミュニケーション委員会には、十六名を委員に委嘱する。

までいな除染会議は現在取り組みが遅れている。



▲稲わらバイオマス施設の様子



佐藤 長平 議員

森林の除染が村の大きな課題となつている。計画的な森林の除染と計画的な林業の再生によつて、木材のチップ化とバイオマス発電が進められる循環的エネルギーの創出が図られ、併せて雇用の創出が生み出される制度の確立を政府に強く要望すると思うが。

質問

**質** 木質バイオマス発電の誘致を  
**答** 森林除染の加速化と雇用が図られる

答弁

村民が帰村するうえで、最大の課題は、放射線の空間線量をいかに下げるかであり、森林を含めた徹底的な除染が必要と考えている。森林の計画的な除染と森林施行を一体的にとらえ、そこから発生する除染廃棄物を木質燃料としたバイオマス発電は、廃棄物の減容

化にもつながり、森林除染を加速化する最適な事業となり、また、雇用の促進も図られると考えている。

現在の調査状況ですが、今年2月の議会と松市の「グリーン発電会津」の事業概要を参考にしながら、送電出力規模5キロワットとし、発電所、チップ工場、土場などの敷地面積、発電に必要な年間の燃料となる木材量と村内森林の年間成長量など、長期を見据えた供給計画が必要と考えている。

又、より効率的な施設運営にするため、国が責任をもつて建設を進めるよう調整を図りながら進めて参りたい。



◀木質バイオマス用チップ工場の様子





佐藤 八郎 議員

**質** 100パーセント被害者である村民の分断は許さず、完全賠償の実現を

**答** 村民の声を広く聞き、損害賠償の早期支払いを求めます

**質問**

村民の健康を守り補償させること。子ども、若者、弱者などへの放射能被ばくによる被害は2〜3年目以降に出てくる。全村民に向けた精密検査を実施し、早期発見、早期治療、更には将来的な健康保障を国及び東電に求めるべきである。

**答弁**

早期発見、早期治療につなげるため検査、健診を長期にわたり定期的に実施する。甲状腺検査、内部被ばく検査については県からデータが来ないので細かい分析はできない。総合健診では血液への影響は見られないが、運動不足、高血圧、高コレステロール血圧、

糖尿病が悪化している。今後健康診査や放射線検査を国の責任で受けられるよう要望する。

**質問**

住民団体によるアンケートによると、帰村しない、できない村民がいるようだが、被害を受けた村民への住宅、仕事、学校などの支援はどのように具体化するのか。

**答弁**

今後の計画の中で、村民それぞれの立場に寄り添うべく具体化していく

**除染進めるが仮置場は無し、除染場所が仮置き場**

**質問**

昨年より実証試験しているが、除染とは今まで村に無かった全ての放射性物質を取り除き、別の場所へ隔離することである。村は国と一緒に、当面2

分の1とか年間5ミリシーベルトとか、まるで、除染技術、方法が確立されたように言っているが、事実としては自然減であって効果はなかったのではないか。今後の工程と予算示せ。

**質問**

いちばん館前では70.1パーセント減、二枚橋の農地は24.4パーセント減、長泥の宅地で36.9パーセント減。年1ミリシーベルトは村及び国への長期的な目標であるので強く国に要望する。

**答弁**

今の除染では、放射能が子どもや若者が住んで働ける、家族そろって暮らせる安心安全な数値にまで下がるとは考えられないとの声がある。森林と数値の高いつころから除染すべきと思うが、確立した除染技術はあるのか。

**質問**

また、現在放射性物質の飛散はないのか。現況について証明し施策を示せ。

**質問**

森林優先では年数がかかり、村民の帰村意識が損なわれる。実証で得た技術で新たな除染技術を見出しているだけかと考えている。原発からの飛散は無いと思うが確認する。

**質問**

行政の中立とは「原発推進」「原発再稼働賛成」「放射能年間20ミリシーベルト大丈夫」の講師、アドバイザー（年間謝礼749万円）を選ぶことか。

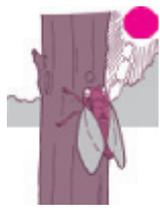
**質問**

過去の活動歴や講演等を持って慎重に選定している。



▲放射性物質が村中に移動して線量値平均化する

# 常任委員会



# 活動報告

常任委員会の活動として、今回は「放射線の検査体制、介護支援のあり方」、「川内村における復興に向けた取り組み、復興住宅建設状況等」を調査した。

昨年、原子力災害が村内、村民にどれだけの影響があったのかを確認するために村内産山菜等に含まれる放射性物質の検査結果を調査した。

結果をみると高かったのは「コシアブラ」で16800ベクレル。「コゴミ」で3400〜1050ベクレル。「シイタケ」が3200〜1500ベクレル。「タラの芽」が3200〜560ベクレル程度が検出された。それ以外には、「たけのこ」2100、「フキノ310〜1400」、「行者ニンニク」が800ベクレル検出された。なお、ハウスイチゴはND。井戸水は検出不可となっていた。

## 村内産山菜等の検査結果 各行政区で百ベクレル超

(産業厚生常任委員会)



▲役場内に設置された検査器具



▲川内村の応急仮設住宅

## 介護者の 支援プログラム

一年前の高齢者の生活状況と比較すると要支援者が53人から91人へ。要介護1が26人から45人へ。全体で313人から440人へ増加している。

「いいたてホーム」では現状では77人入所で、あと40人程度入所可能であるが、介護職員の不足や、保険料高

騰へつながることなど 課題が山積みである。

## 現在 帰村率 5分の1 川内村 復興のあゆみ

(総務文教常任委員会)

川内村は今年1月に「帰村宣言」を行った。宣言をする前に復興計画を策定し、村民説明や懇談会で役場機能や学校の再開、さらに「戻れる人から戻る」との方針を決め、宣言に至った。

所見としては、村に戻った小中学生が合わせて38名と少なく若者の帰村率が低い傾向にあり、大きな課題となっている。

また応急仮設住宅は福島県の配慮もあり、永住住宅としても対応できる建設となっている。

飯館村からの進出を決定した「菊池製作所」は今後、雇用の場として期待しているとのことであった。

川内村は飯館村と比較して線量が低く、復興に向けて第一歩を歩み始めたが、それでも克服すべき課題は山積みである。

平成二十四年  
第5回議会定例会

第5回議会定例会は6月14日から21日までの8日間の会期で開催しました。  
今議会での議案審議は次のとおりです。

人権擁護委員の候補者の推薦について

新委員

草野周一氏

(飯館村飯樋字町71番地)が全会一致で承認されました。

飯館村農業委員会委員の推薦について

新委員

西尾ツネ氏

(飯館村二枚橋字106番地)が全会一致で承認されました。

議案番号	件名	結果
------	----	----

予算

議案第32号	平成24年度飯館村一般会計補正予算(第3号)	原案可決
議案第33号	平成24年度飯館村国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第34号	平成24年度飯館村介護保険特別会計補正予算(第1号)	原案可決
議案第42号	平成24年度飯館村一般会計補正予算(第4号)	原案可決

条例改正

議案第35号	飯館村選挙公報の発行に関する条例	原案可決
議案第36号	飯館村印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第37号	飯館村企業立地支援条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第38号	飯館村国民健康保険条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第39号	東日本大震災に伴う国民健康保険税の減免に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第40号	東日本大震災による被災者が属する世帯の第1号被保険者に対する介護保険料の減免に関する条例の一部を改正する条例	原案可決

発議

発議第5号	脱原発を求める意見書(案)	原案可決
発議第6号	東京電力福島第一原子力発電所事故災害による放射能汚染物の早期除染と復興を求める意見書(案)	原案可決

その他

議案第41号	福島県後期高齢者医療広域連合規約の変更について	原案可決
議案第43号	飯館中学校仮設校舎整備工事請負契約の変更について	原案可決
諮問第2号	人権擁護委員の候補者の推薦について	原案可決

総務文教・産業厚生常任委員会  
合同視察調査

6月25日～26日の日程で、山形県最上町にあるウエルネスタウン最上のバイオエタノールギーシステム(チツルギー)と、秋田県プボイラー)と、秋田県潟上市の稲ワラを原料としたバイオエタノールの実証事業を視察調査いたしました。



▲バイオエタノールプラントにて説明を受ける

集記  
編後



先日、中学生のドイツ研修の報告会があった。脱原発に方向転換したドイツでの、風力発電バイオエタノール等の自然エネルギー対策、また地元若者との交流における感想など立派な報告であった。また、彼等から今後の飯館村の復興にも尽力したいとの考えを聞き、力強く頼もしさを感じた。彼らの将来に大いに期待しエールを送りたい。ガンバレ若者よ!

発行責任者

議長 佐藤 長平

編集

広報編集特別委員会

委員長 大和田和夫  
副委員長 菅野 義人  
委員 大谷 友孝  
北原 経  
飯樋善二郎  
松下 義喜